

課題本アンケートご協力をお願い

2025年11～2026年1月の課題本を投票で決めます。

下記7作品の中から、皆で読んで意見交換・感想を共有してみたい作品を3つお選びください。

15:45 頃に発表しますので、15:30 頃までには提出して頂けると幸いです。

番号	タイトル	著者名	頁	選書理由・あらすじ等
1	羊と鋼の森	宮下 奈都	288	高校生の時、偶然ピアノ調律師の板鳥と出会って以来、調律に魅せられた外村は、念願の調律師として働き始める。ひたすら音と向き合い、人と向き合う外村。個性豊かな先輩たちや双子の姉妹に囲まれながら、調律の森へと深く分け入っていく。一人の青年が成長する姿を温かく静謐な筆致で描いた感動作。
2	ミュージック・ブレス・ユー！！	津村 記久子	256	「音楽について考えることは将来について考えることよりずっと大事」な高校3年生のアザミ。進路は何一つ決まらない「ぐだぐだ」の日常を支えるのはパンクロックだった！ 野間文芸新人賞受賞の話題作！
3	コンビニ人間	村田沙耶香	176	「普通」とは何か？ 現代の実存を軽やかに問う第155回芥川賞受賞作
4	モモ	ミヒヤエル・エンデ	432	時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子モモのふしぎな物語。私が毎年一回は読むようにしているエンデの名作です。
5	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	160	砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐるから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった。
6	こころ	夏目漱石	336	遺書には、先生の過去が綴られていた。のちに妻とする下宿先のお嬢さんをめぐる、親友Kとの秘密だった。死に至る過程と、エゴイズム、世代意識を扱った、後期三部作の終曲にして漱石文学の絶頂をなす作品。
7	変身	フランツ・カフカ	121	朝、目をさますと巨大な虫に変っている自分を発見した男——グレーゴル・ザムザ。第一次大戦後のドイツの精神的危機を投影した世紀の傑作。

お名前 _____

1～7の中から3つ選び、右の枠に番号の記入をお願いします。

(4つ以上回答された場合はすみませんが無効票となります)

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

上記作品の他に課題本にしてみたい作品がありましたら、こちらにご記入ください。次回投票時の候補にあがっている……かも？